

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

# JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

宮城県 仙台市立広陵中学校

Olympic  
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、  
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、  
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ



2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、  
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- 期 日：2021年10月27日(水)
- ク ラ ス：1年1組(13名)、2年1組(8名)、3年1組(18名)
- オリンピック：宮下 純一 先生 (水泳 / 競泳)【出場オリンピック / 北京大会】
- 授業のながれ：運動の時間 (3時限)

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



- ・自己紹介の後、東京2020大会が無事に開催されたこと、皆も大会を見てオリンピックを身近に感じることができたのではないかと話した後、オリンピックイズとして、オリンピックシンボルの5つの輪の由来について出題した。
- ・準備運動として、10種のストレッチを行った後、皆で掛け声を掛けながら体育館内をジョギングし、続いて、新聞じゃんけんバランスを実施した。

○主運動 等



- ・主運動として、新聞ボール運びリレーを実施。6班に分かれ、班内で2人1組となり、新聞紙の上に乗せたボールを落とさずに、コース上に置かれたコーンを回り、次のペアに繋ぎ、如何に早くゴールできるかに挑戦した。



- ・運動の時間を振り返り、作戦タイムでは、早くゴールするために、どのようにすればよいかを皆で話し合った。オリンピック選手も同様にライバルに勝つために、常に作戦を考えながら勝負に挑んでいる。皆にも勝負に挑む気持ちを感じてもらうために新聞ボール運びリレーを実施した。座学では、さらにオリンピックを身近に感じてもらうために、自身がオリンピックに出場し、何をすることができたかを映像も使用しながら話すことと伝え、授業終了。

- 期 日：2021年10月27日(水)
- クラス：1年1組(13名)、2年1組(8名)、3年1組(18名)
- オリンピック：宮下 純一 先生 (水泳 / 競泳)【出場オリンピック / 北京大会】
- 授業のながれ：座学の時間 (4時限)

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・水泳/競泳には派遣標準記録があり、選考会の決勝で派遣標準記録を2位以内の順位で切った場合のみ、オリンピック代表に選出されると話し、2008年のオリンピック選考会と北京大会の映像を紹介し、ライバルがいたからこそ、諦めずに練習を続けることができ、オリンピックに出場できたと伝える。

○個人ワーク～グループワーク等



発問①：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出そう  
 発表：エクセレンス：「ペアの相手が自然と息を合わせてくれた」等、フレンドシップ：「チームワークで皆で団結し全力で取り組めた」等  
 発問②：コロナ禍で生活しながら感じたオリンピックバリューを書き出そう  
 発表：フレンドシップ：「マスク越しで相手の表情が読めない時もあったが、相手を思うことで自分の気持ちを伝えることができた」等



・日常生活でも「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」に当てはめて考え、オリンピックバリューから得られることを大切に、生活してほしい。  
 今日のオリンピック教室で学んだオリンピックバリューを意識し、今後開催されるオリンピックを見ることで、選手達がどのようなエクセレンスを乗り越え、どのような友情を感じ、どのような敬意を持って、オリンピックを目指して来たのか等を考えながら見ることで、さらにオリンピックを楽しむことができると伝え、授業終了。

■ 記念品贈呈



■ 修了証贈呈

